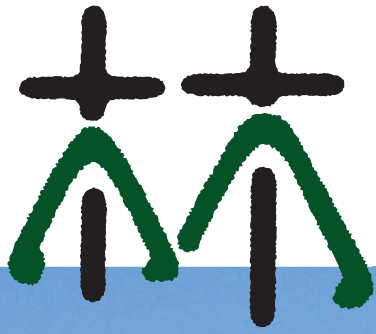


人と森をつなぐ情報誌
RINYA



特集

レクリエーションの森へ
出かけよう!!

令和8年 緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰

受賞者 紹介

緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰とは、緑化推進運動の実施について、顕著な功績のあった個人又は団体に対し、内閣総理大臣が表彰を行うものです。
令和8年は13の個人・団体が受賞されました。本誌では毎号、受賞者の方々をご紹介します。

エスペック株式会社 神戸R&Dセンター（兵庫県神戸市）

同社は、「土地本来の自然の回復」をコンセプトに、外周林や屋上草地など多様な緑地を整備するほか、敷地内外の緑地を活用した生物多様性の保全や環境教育活動にも積極的に取り組んでいます。

地域の植生調査をもとに選定した65種、3万本の樹木を従業員自らが植樹し、周囲の森林と連続性を持たせた「エスペックの森」を造成するほか、地域性に配慮した草地と水辺から成るビオトープを整備し、多様な生態系を創出しています。また、近隣の大学と連携した森づくりを学ぶセミナーの開催や地元の小学生向けの環境教育にも取り組んでおり、地域の緑化推進のみならず幅広い年代に対する環境教育にも貢献しています。

※活動ウェブページ <https://www.espec.co.jp/>



▲ ビオトープ委員（社員）の皆さん



▲ ビオトープの整備



▲ 小学生を対象とした環境教育

過去の受賞者については林野庁ウェブサイトをご覧ください。

https://www.rinya.maff.go.jp/j/sanson_ryokka/hyosyo/con1.html



人と森をつなぐ情報誌



表紙の写真：飯野山（香川県）

webアンケートにご協力をお願いします!

<https://www.contactus.maff.go.jp/rinya/form/kouhou/202604.html>



Contents

- 03 **特集** 「レクリエーションの森」へ出かけよう!!
- 08 TOPICS 01 令和7年度 治山・林道工事コンクールの実施について
- 10 TOPICS 02 令和8年度 みどりの月間
- 11 TOPICS 03 全国がんばる林業高校生表彰
- 12 建築物木材利用促進協定の締結企業の紹介 100年後の森の未来を考えるシロの木材利用促進について
- 14 森林総研の最新研究 林野火災の発生リスクが高いのはどのような状態の森林か
- 16 国有林野事業の取組 七里御浜の松林を守り育てる、地域の力
- 18 TOPICS 04 「森林の土地の所有者届出書」の様式が変わりました
- 19 みどりの大使が行く! 緑の雇用ポスター/山梨視察、苗木生産・木材加工



特集

レクリエーションの森 へ出かけよう!!

日本の国土の多くは、豊かな森林につつまれています。
林野庁では、みなさまに広く森林に親しんでいただけるよう、優れた自然景観を持ち、森林浴や自然観察など自然とのふれあいに適した国有林を「レクリエーションの森」に設定しています。
その中から特にお薦めする7箇所を、今月号と9月号の2回に分けてご紹介します。

※記事で紹介した施設やイベントの営業・開催状況については、事前に主催者のウェブサイト等でご確認ください。

ウェブサイトでは『日本美しい森 お薦め国有林』の見どころや魅力あふれる映像をご紹介します!

レクリエーションの森のうち、特に景観が優れた93箇所を『日本美しい森 お薦め国有林』に選定しており、こちらからご覧になれます。

◀レクリエーションの森：林野庁



ドローンによる空撮映像はこちらをご覧ください。

◀ドローン空撮映像：林野庁



白金自然休養林

北海道美瑛町

今なお白煙を上げる十勝岳とその泥流跡地に広がる雄大な自然

概要

北海道の中央に鎮座し、2,000m級の山々が連なる大雪山系。その南西部に位置する十勝岳連峰の主峰である十勝岳(2,077m)は、今なお白煙を上げる活火山です。度重なる噴火の歴史を物語る火口群や泥流跡地は、学術的にも極めて貴重なものとして知られています。

この十勝岳の中腹、標高約500m~1,000mにかけて広がる白金自然休養林では、過去の火山活動による泥流跡地に自然再生したアカエゾマツやダケカンバなどが混在する森林を見ることができます。

楽しみ方

白金自然休養林の面積は約946haで、緑豊かな針広混交林が広がっています。林内には「原生林歩道(1,900m)」、「ウグイス谷歩道(3,100m)」などの遊歩道があり、野鳥のさえずりを聞きながら森林浴、自然観察、ハイキングなどを楽しむことができます。

十勝岳山麓の静かな林内に佇む国設白金野営場にはテントサイトとケビンなどがあり、木漏れ日が揺れる非日常空間の中で思い思いの時間を過ごすことができます。

また、近隣には多くの観光客や登山者が訪れる「白金温泉」のほか、人気スポットの「白金青い池」や潜流瀑で有名な「白金白ひげの滝」があり、車で容易にアクセスできます。

さらに、本野営場から約5kmの場所にある「十勝岳望岳台」(標高930m)からは十勝岳の噴煙、美瑛岳、美瑛富士など山並みの山岳美を眺望できるとともに、十勝岳山頂を起点に美瑛岳方面や富良野岳方面の縦走登山にもチャレンジできます。



国設白金野営場と場内のケビン



写真 上:「十勝岳望岳台」より十勝岳を望む 下:原生林歩道

アクセス

公共交通機関の場合

旭川駅→(JR 富良野線:約35分)→美瑛駅
旭川空港→(ふらのバス:約15分)→美瑛駅
美瑛駅→(道北バス:約30分)→白金温泉バス停

自動車の場合

旭川北IC→(約1時間10分)→白金温泉
旭川空港→(約45分)→白金温泉

参考 URL

美瑛町観光ポータルサイト
<https://www.biei-hokkaido.jp/ja/>

国立大雪青少年交流の家
<https://taisetsu.niye.go.jp/>



白金白ひげの滝

高野山風景林

和歌山県高野町

霊場高野山の森

—世界遺産を形づくる高野六木の天然林—

概要

和歌山県北部に位置する高野山風景林は、1,000m級の山々に囲まれた標高約800mの平坦地に広がる森林で、高野龍神国定公園にも指定されています。高野山は、平安時代の初期に弘法大師（空海）によって開かれた真言密教の聖地であり、100以上の寺院が密集する、日本では他に例を見ない宗教都市です。

高野山はその歴史的・文化的価値から、ユネスコ世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部を構成する資産として登録されており、平成27年には開創1,200年というメモリアルイヤーを迎えました。現在では参拝客や観光客が数多く訪れる国際的な景勝地となっています。



写真 上：高野山風景林遠景 下：森林セラピーロード

楽しみ方

風景林付近には樹齢300年を超える針葉樹の天然林が広がり、2.5kmの「森林セラピーロード」では、高野六木と呼ばれるスギ・ヒノキ・アカマツ・モミ・コウヤマキ・ツガが混在する高野山特有の森林を散策できます。特に、日本の固有種であるコウヤマキが群生する区域は「高野山コウヤマキ希少個体群保護林」として指定されており、学術的にも貴重な植生が維持管理されています。

また、セラピーロードの入口には、かつて女人禁制であった時代に、女性が祈りを捧げられるお堂として建立された「不動坂口女人堂」があります。この女人堂は、高野山で現存する唯一の女人堂であり、国内でも貴重な文化財となっています。こうした史跡や森林を巡りながら、宗教都市の歩みと、それを支えてきた豊かな自然の歴史を併せて体感することができます。



コウヤマキ希少個体群保護林とコウヤマキ

アクセス

公共交通機関の場合

- ・JR大阪駅→(JR環状線・特急こうや：約100分)→極楽橋駅から徒歩約20分
- ・JR大阪駅→(JR環状線・特急こうや、高野山ケーブルカー：約110分)→高野山駅
- ・高野山駅→(南海りんかんバス：約15分)→金剛峯寺前バス停から徒歩約40分

自動車の場合

京奈和自動車道 かつらぎ西ICから約45分
大門南駐車場（無料・200台）**駐車場無料**
※駐車場から大門バス停まで徒歩で移動（約10分）し、バスへ乗車して金剛峯寺前バス停で下車（約10分）

参考URL

一般社団法人高野町観光協会
<https://www.koya.org/>



不動坂口女人堂

屋島風景林 飯野山風景林

香川県高松市・丸亀市・坂出市

瀬戸内の多島美と、 歴史・文化が満喫できる展望台

概要

香川県の北部に位置する屋島風景林と飯野山風景林では、雨風により柔らかい花崗岩層が先に削られ、硬いサヌカイト層が残る差別侵食によって形成された、他の地域ではなかなか見られない独特の山体が見られます。

屋島は、讃岐平野からそそり立つ屏風のような形となっており、頂上が平らなメサ地形と呼ばれる地形となっています。かつては独立した島でしたが、江戸時代の塩田開発等により埋め立てられ、陸続きとなりました。

一方、絵本に出てくるおむすび山のような円錐形（ビュート地形）をした飯野山は、その姿から「讃岐富士」と呼ばれて親しまれています。

楽しみ方

どちらの風景林も平野部から頂上まで高低差が300～400m程度で、片道約40分程度で登ることができる幅広い層の方々を楽しめる山となっています。

屋島山頂からは桃太郎の鬼ヶ島のモデルとされる女木島をはじめ、瀬戸内海の島々や行き交う船を見渡すことができます。屋島は源平合戦の「屋島の戦い」が行われた場所でもあり、四国八十八ヶ所の札所「屋島寺」や、山上にある新屋島水族館（現在リニューアル工事のため、高松市内で「市場水族館」が臨時開館中）など、多様な歴史と文化、学びの機会に触れることもでき、訪れる人々を楽しませてくれます。

また、飯野山山頂からは讃岐平野を見渡せ、春先には山や裾野に広がる地域特産の桃の花を楽しむことができます。

さらに飯野山では、過去の大雨等で荒れた登山道の整備のために登山者がふもとから土石を持って登り、被害箇所に戻す「一日一石運動」の活動が行われています。環境保全活動に協力



屋島から見渡す瀬戸内海



写真 上：屋島 下：朝焼けの飯野山

アクセス

屋島風景林

公共交通機関の場合

高松駅から琴電利用で約30分

自動車の場合

高松中央ICから車で約20分

飯野山風景林

公共交通機関の場合

JR坂出駅からバスで約1時間

自動車の場合

坂出ICから車で約20分

参考 URL

「屋島」の公式観光情報サイト

- all YASHIMA <オール屋島>

<https://www.yashima-navi.jp/jp/>

飯野山 - 丸亀市公式ウェブサイト

<https://www.city.marugame.lg.jp/page/3063.html>



しながら体力づくりにもなる「一石二鳥」の活動ですので、ぜひご参加ください。

山頂からの眺望を楽しんだ後には、周辺の讃岐うどんの名店での、登山後の一杯をご堪能ください。



飯野山の環境保全活動

宮崎自然休養林

宮崎県宮崎市

海・山・川が織りなす景勝地

概要

宮崎市南部に位置する宮崎自然休養林は、宮崎市の中心部から南に約16kmと市街地からアクセスしやすく、双石山系と徳蘇山系、これらの山系に挟まれた加江田溪谷に広がるシイ類、カシ類、タブノキ等の常緑広葉樹の天然林を中心に構成されています。また、標高509mの双石山は原生的な照葉樹林が残る場所として、国の史跡名勝天然記念物に指定されています。さらに、砂岩や礫岩の地層が長年侵食されて生まれた奇岩や岩壁がそびえ立ち、独特の景観を呈しています。

この溪谷の風景がドイツのライン溪谷に似て美しいことから「日向ライン」と呼ばれていることもあり、毎年5月にはトレイルランニング大会が開催されるなど、広く市民に親しまれています。



写真 上：双石山から望む宮崎市街地 下：迫力満点の鏡洲万葉の滝

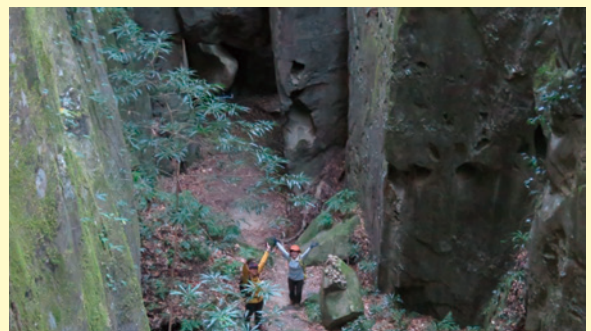
楽しみ方

宮崎自然休養林には、溪谷沿いのハイキングから岩場を進む山歩きまで多様なコースが用意されています。植物相も豊かで、宮崎県を中心に自生するキバナノホトトギスや薄紫色のヒユウガギボウシといった花々のほか、アオゲラやアカショウビンなどの野鳥の鳴き声も楽しめます。溪谷沿いのコースには、林業が盛んだった往時を偲ばせるトロッコ軌道跡が残るほか、透き通った水面が美しい「ひょうたん淵」や、硫黄分を含む冷泉が湧出する「硫黄谷」があり、川の流れと周囲の緑を間近に感じながら散策できます。

天狗の鼻に見える「天狗岩」や、四方を巨大な岩壁に囲まれた「空池」など、ユニークな奇岩が多く見られるほか、展望所からは宮崎市街や日向灘を一望できます。ほかにも、耳の難病に御利益があるとされる磐窟神社や、「田畑に撒けば豊作となる」との言い伝えがある御神水「九平の権現水」が引かれた姥ヶ嶽神社など、地域の歴史や信仰を今に伝える名所も残っています。さらに、休養林の近隣の青島にある巨大な洗濯板のように見える奇岩が並ぶ「鬼の洗濯板」や、「宮崎市自然休養村センター」の温泉を巡るのもお勧めです。



特徴的な奇岩 天狗岩（巨岩地帯）



四方を大岩に囲まれたくぼ地 空池（巨大な岩の壁）

アクセス

🚗 自動車の場合

JR 宮崎駅・宮崎空港から車で30～40分

（丸野駐車場（約100台）を無料で利用できます）

🅑 駐車場無料

参考 URL

林野庁 九州森林管理局ウェブサイト
宮崎自然休養林「日本美しの森 お薦め国有林」
<https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/kanri/rekumori/miyazaki-sizen.html>



宮崎市ウェブサイト 宮崎自然休養林の紹介
<https://www.city.miyazaki.miyazaki.jp/culture/tourism/1286.html>



宮崎市観光サイト 加江田溪谷（宮崎自然休養林）
<https://www.miyazaki-city.tourism.or.jp/spot/10134>



令和7年度

治山・林道工事コンクールの実施について

治山・林道工事コンクールは、国有林野の公益的機能を十全に発揮させ、森林・林業・木材産業によるグリーン成長の推進、その他の事業実施における施策効果を一層発現させることに貢献した治山・林道工事で、民有林における工事の模範としてふさわしいものを表彰するものです。

令和7年度も、厳正な審査を行い、各賞を決定し、2月17日に表彰式を行いました。ここでは、農林水産大臣賞を受賞した工事を紹介します。

農林水産大臣賞

★ 治山工事部門 ★

黒瀬（ケ・22ほか）溪間工事
 施工者 廣濱建設株式会社
 発注者 近畿中国森林管理局広島森林管理署

主な工程

コンクリート谷止工2基

工事内容

平成30年7月豪雨による被災箇所において東広島地区民有林直轄治山事業として実施した工事

評価のポイント

- ICT施工技術を活用し、施工性、安全性及び精度の向上が図られた。
- ICT施工に関する見学会を発注者及び他の事業者を対象に実施し、ICT施工の効果について共有が図られた。
- レールに沿って型枠や足場を上昇させることができるスライド型枠を採用し、型枠を転用する際の解体・再設置の省力化が図られた。
- ウェアラブルカメラ（体に身に着けるカメラ）を使用した監督職員による段階確認を実施し、立ち会い時間の短縮・省力化が図られた。



大臣賞受賞の様子



自動追尾式トータルステーションを活用したICT建設機械の活用



レールに沿って型枠や足場を上昇させることができるスライド型枠を採用



ICT施工に関する見学会を発注者及び他の事業者を対象に実施



農林水産
大臣賞

★ 林道工事部門 ★

奥名寄林道災害復旧工事
施工者 新谷建設株式会社
発注者 北海道森林管理局上川北部森林管理署

主な工種

コンクリート擁壁工2基

工事内容

令和5年8月豪雨により被災した奥名寄林道の災害復旧工事

評価のポイント

- ICT施工技術を活用し、施工性、安全性及び精度の向上が図られた。
- 大型のコンクリート圧送車を使用することにより打設時の移動を軽減し作業の効率化が図られた。
- 施工現場にスターリンクを設置し通信環境を確保することで、高性能クラウドLTEカメラにより会社等と常時現地映像を共有し、安全管理の徹底が図られた。

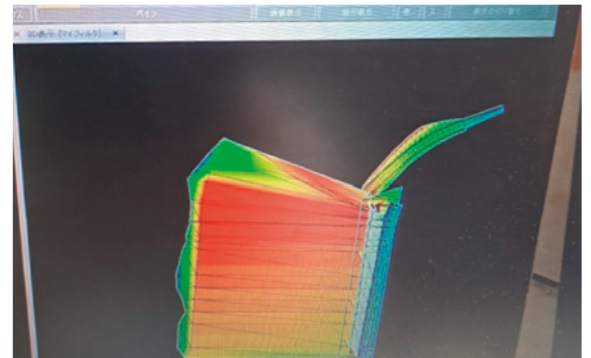
治山・林道工事コンクールについて

<https://www.rinya.naff.go.jp/j/>

gyoumu.tisan.rindoconcourse/koujicon.html



大臣賞受賞の様子



地上レーザースキャナーを用いた3次元出来形管理



大型のコンクリート圧送車を使用した打設



スターリンクを設置し通信環境確保



令和8年度 みどりの月間



毎年4月15日から5月14日は「みどりの月間」です。月間中は、多くの方々に森林や自然とふれあい、植樹活動等に取り組んでいただけるよう、様々なイベントが開催されるほか、緑の募金運動が重点的に実施されます。

各種緑化行事

「みどりの月間」には、春に見られる動植物の観察会や自然教室、国営公園の無料開放等のイベントが多く行われます。詳細については、以下のウェブサイトでご確認ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/ryokka/gekkan/>



また、「みどりの感謝祭」の併催行事として、5月9日～10日に、東京都八王子市高尾にある「高尾599ミュージアム」において、森や木とふれあい、クラフトや体験プログラムなどが楽しめる「みどりとふれあうフェスティバル」を開催します。詳細は以下のウェブサイトに掲載しております。ぜひお越しください。

<https://www.midorinokanshasai.com/>



緑の募金

「みどりの月間」を「緑の募金全国一斉強調月間」として、春の「緑の募金」運動が展開されます。緑の募金は、国内外で行われる植樹や間伐等の森林整備や緑化を行うボランティア活動、森林を活用した子どもたちへの森林環境教育等を支援するものです。また、災害（気象災害、地震災害、東日本大震災、山火事）による被災地域の復旧・復興支援を目的とした森林整備や緑化等にも使われています。

<https://www.green.or.jp/bokin/>



また、地元やふるさとの森づくりを支援したい方は、各都道府県で緑の募金を行っている緑化推進委員会のサイトに簡単にアクセスできるポータルサイトもございますので、あわせてご覧ください。

<https://www.green.or.jp/bokin/furusato-green/>



海岸林での植樹



森林体験学習（間伐体験）



少花粉スギ苗植樹活動



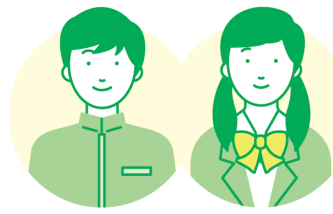
ウガンダ共和国での森林保全活動



仮設住宅団地や福祉施設等への木製プランターの提供
(令和6年能登半島地震)



仮設住宅への木製収納棚の提供
(岩手県大船渡市の林野火災)



全国がんばる林業高校生表彰

「全国がんばる林業高校生表彰」は、将来の森林・林業を担う人材として、日々森林・林業に関する社会活動や研究などに取り組んでいる高校生の取組を応援するため、全国林業研究グループ連絡協議会が林野庁補助事業を活用し、令和2年度から開催しています。

本表彰には、高校生個人の資格取得や社会活動への参画状況を評価する「学校推薦部門」と、グループ等で地域の森林・林業の振興や課題解決を目指し取り組んでいる意欲的な活動や研究を評価する「地域活動・研究部門」の2部門があります。

「令和7年度全国がんばる林業高校生表彰」において、「学校推薦部門」では愛媛県立上浮穴高等学校の福田晴真さんが、「地域活動・研究部門」では熊本県立矢部高等学校の森林保全班（代表：鳥井太賀さん、村上優太さん、山崎颯太さん、橋本幸宝さん、上村心暖さん、小柴馨さん）が、それぞれ最優秀賞である林野庁長官賞を受賞しました。

福田さんは、将来、森をもっと多くの人が集まる場所にしたいという想いから林業に携わる公務員として働くことを目標に定め、学校では林業の専門知識や技術を学び、学校外では職場体験や「聞き書き甲子園」への参加、地域の森づくりボランティア活動などを通して社会とのつながりを築いてきました。これらのさまざまな取組が高く評価されました。

熊本県立矢部高等学校の森林保全班は、授業で広葉樹林の役割について学んだことを活かして、未整備の森林や耕作放棄地の増加に伴う水源かん養機能の低下といった地域が抱える課題に取り組み、クヌギを対象とした発芽試験の実施や耕作放棄地の苗畑としての活用、保育園等での植え付け教室の開催などの、地域における持続可能な森づくりの活動が高く評価されました。

各受賞者について



学校推薦部門

愛媛県立上浮穴高等学校 福田晴真さん（3年生）

活動内容：海外研修でドイツの林業学習、第23回聞き書き甲子園参加、地域の有志による森づくりに定期的に参加等

取得資格：伐木等の業務に係る特別教育等

受賞歴：第76回日本学校農業クラブ全国大会意見発表分野Ⅱ類優秀賞受賞等



（福田さん、小坂林野庁長官）



地域活動・研究部門

熊本県立矢部高等学校 森林保全班
 鳥井太賀さん、村上優太さん、山崎颯太さん、
 橋本幸宝さん（3年生）
 上村心暖さん、小柴馨さん（2年生）

テーマ：持続可能な森林づくり

～どんでんぐりで広げる水源林保全と国土保全の輪～

活動内容：クヌギの発芽実験、耕作放棄地の整備・苗畑活用、保育園や商業施設で「どんでんぐり植え付け教室」の開催、企業やNPO等と連携した取組等



森林保全班の皆さん
 （前列左から山崎さん、橋本さん、村上さん、鳥井さん、小柴さん、上村さん）



100年後の森の未来を考える シロの木材利用促進について

株式会社シロ

株式会社シロについて

SHIROは「自分たちが毎日使いたいものをつくる」というシンプルな想いからスタートしたコスメティックブランドです。ブランド誕生から今年で17年目を迎えます。私たちは2年前、すべての資源の価値を見つめ直す「SHIRO 15年目の宣言」を掲げ、地球や未来の子どもたちのために廃棄物ゼロを目指すことに取り組んでいます。

木材利用に取り組む きっかけ

2023年4月、創業の地である北海道砂川市にオープンした『みんなの工場』の建設時に、林業家の皆さんに出会い、彼らの考えに魅了されたからです。自然に配慮した間伐方法や、その有効活用など100年後の森の未来を考えた活動に心から共感し、何度も一緒に森へ入りました。その出



取り組むきっかけとなった「みんなの工場」（2023年4月オープン）

会いがあったからこそ、本質的な森の循環に向き合い、木材利用の取組に努めています。例えば、『みんなの工場』ではショツプの什器に江丹別のシラカバを、外壁には北竜町のカラマツを林業家の皆さんから直接購入して使用しています。

協定に基づいた取組

SHIROでは2024年3月に農林水産省と「株式会社シロにおける木材利用拡大に関する建築物木材利用促進協定」を締結し、SHIROが建設する建築物において地域材を利用する設計を基本とし、木造以外の新築や改修においても可能な範囲で木質化に努めること等の構想を掲げ、限りある森林資源を余すことなく活かす取組を行っています。

2014年4月北海道長沼町にオープンした一棟貸しの宿泊施設『MAISON SHIRO』や、2025年11月に『みんなの工場』の敷地内にオープンしたイノベータープレストラン『MORISHIRO O』では、林業家の皆さんから直接購入した木材を使用し、内外装だけでなく見えないう構造材や下地材、造作家具、ドアなどにも活用しています。『MORISHIRO』では、建物だけではなく、コースに使われているお料理のさまざまな食材に森で獲れ



北海道産の木材を利用した木造の宿泊施設「MAISON SHIRO」（2024年4月オープン）



建築端材や廃材により内装の木質化した「SHIRO 札幌ステラプレイス店」



愛別町森林(もり)づくりと活用に関する協定締結式

た肉や収穫された植物や実を取り入れています。

森林づくりの取組を地域と協働するため、2024年11月には栗山町と「ほっかいどう企業の森林づくり」の協定を、2025年8月には北海道愛別町と「愛別町森林(もり)づくりと活用に関する協定」を締結し、企業版ふるさと納税を活用した森林整備や啓発活動を行っています。これらに加え、単に森の木材を使用するだけでなく、SHIROの製品にシラカバの樹液や枝葉を使用し、森の恵みをスキンケア製品として昇華させ、2022年から旬シリーズの「白樺」として毎年販売しています。また、森を育てるため植栽した苗木が健康やかに育つよう、下層部に生える雑草や雑木を除去する下刈りの作業の際に自生するヨモギを採取し、化粧品にしました。協定を結んでいる愛別町から個人版ふるさと納税の返礼品としてそれらの製品を出品し、寄付者がヨモギの製品を受け取ることで、さらに地域へお金が循環するスキームを構築しました。

お店づくりにおいても、地域の木材を積極的に使用しています。2025年4月に移転リニューアルオープンした『SHIRO 阪急うめだ店』は、兵庫県の間伐材をありのままの形で壁や什器に活用しました。また、同年9月にリニューアルオープンした『SHIRO 札幌ステラプレイス店』においても北海道で建設中の建物の端材を活用し、廃材に新たな価値を与えています。

今後の展望

現在リニューアル中の「砂川パークホテル」が「PARK SHIRO」と名前を変え、2027年1月にリニューアルオープン予定。併設のサービス付き高齢者向け住宅においても、同様の取組を進めています。森と真剣に向き合う林業家の皆さんとの

関係性を深め、林業が自立して継続できるように木材を直接購入し続けながら、限りある森林資源を余すことなく利活用していきます。

このように壮大な自然の中で育った森の恵みを丸ごと活かす取組を今後も進めてまいります。



2027年1月にオープン予定の「PARK SHIRO」外観イメージ(左)と1F内装イメージ(右)



2027年1月、砂川市に開業予定のサービス付き高齢者向け住宅「みんなのおうち」外観イメージ(左)と内観イメージ(右)





森林総研の最新研究

林野火災の発生リスクが高いのは どのような状態の森林か

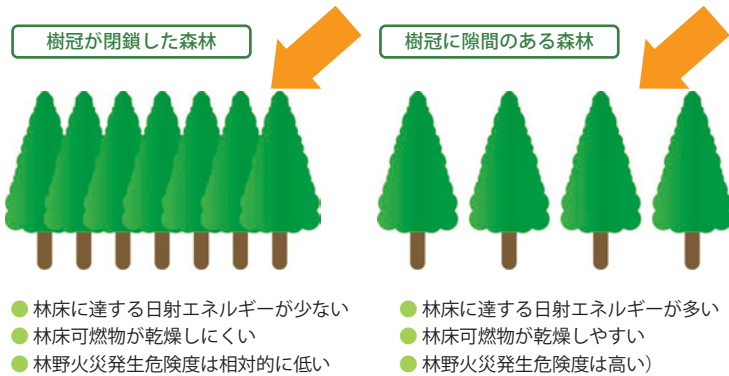
森林総合研究所

① はじめに

2025年2〜3月や2026年の1〜2月には林野火災を報じるニュースを耳にする機会が多くありました。日本の林野火災の多くが火の不始末などの人為的原因によるものですが、「林野火災の発生リスクが高いのはどのような状態の森林か?」と思ったことはありませんか。ここでは、森林の状況や気候条件と林野火災発生リスクとの関係についての研究成果を紹介します。

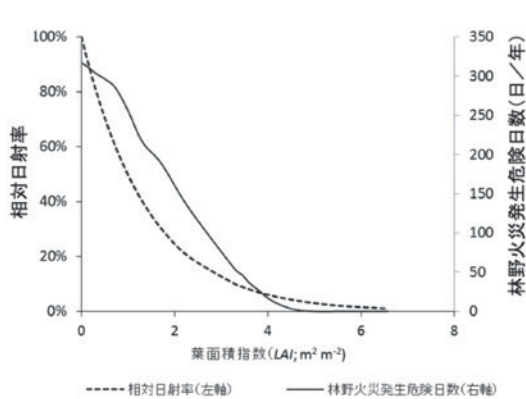
② 林野火災発生リスクの評価

林野火災では最初に地面の落葉や落枝(林床可燃物)が燃え始めます。十分に湿っている林床可燃物は燃えにくい状態ですが、雨の降っていない日には、森林の地面(林床)に届く太陽からのエネルギーによって林床可燃物から水分が蒸発していきます。そのため林床可燃物は次第に乾燥していき、やがて燃えやすい状態(可燃状態)となります。森林に降り注ぐエネルギー(日射量)の

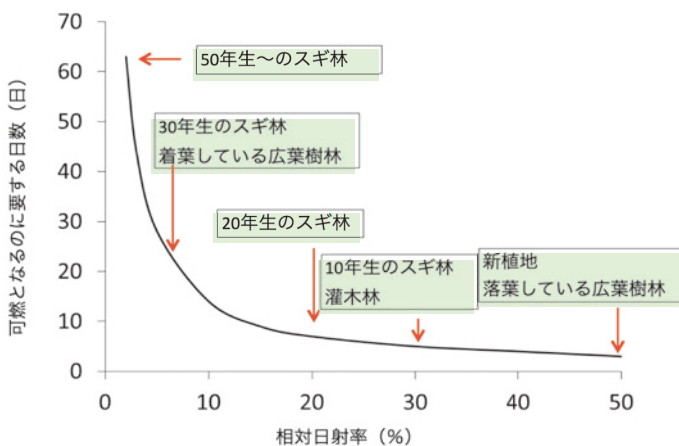


(林床可燃物の含水比20%以上では燃焼しない)

葉量の違いが林床可燃物の燃えやすさに及ぼす影響
(森林保険センター・森林総合研究所、2020)



葉量と相対日射率、林野火災発生危険日数の関係
(玉井・後藤、2017)



相対日射率と、十分に湿った林床可燃物が可燃状態にまで乾燥するのに要する日数の目安

うち、樹木の葉や枝にさえぎられることなく、地面まで到達するものの割合を「相対日射率」といいます。葉の量(葉量)が少ない場所では相対日射率が大きくなり、林床可燃物は早く乾燥します。また、林床可燃物が20%以上の水分を含んでい

ると燃えにくいとされています。

森林総合研究所では、樹冠面での日射量、降水量と相対日射率のデータから林床可燃物の含水状態をシミュレーションするモデルを開発しました。ある地面の真上にある葉の総面積が、その地面の面積の何倍であるかを示す「葉面積指数」の増加につれて相対日射率は小さくなります。こうした森林では林床可燃物からの水分の蒸発が抑制され、年間での林野火災発生危険日(林床可燃物の水分量が20%よりも少なくなる

日)も減少していきます。このことは葉量の多い森林では林野火災リスクが低いことを示しています。

左のグラフでは、どのような森林でどの程度の相対日射率であるのか、雨の降らない日が続くと十分に湿った林床可燃物が燃えやすい状態になるまで乾燥

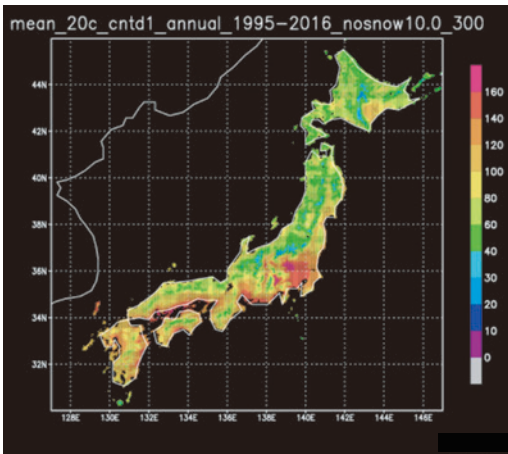


相対日射率50%程度の森林（落葉している広葉樹林）



相対日射率3%程度の森林（50年生のスギ・ヒノキ林）

するの、を示しています。新植地や落葉している広葉樹林といった葉量がほとんどない相対日射率50%の森林では、わずか3日で林床可燃物が燃えやすい状態になるまで乾燥します。一方、50年生以上のスギ林のような葉量の多い相対日射率3%の森林では、燃えやすい状態に乾燥するまで60日程度を要します。



林野火災発生危険日数の推定値を示した地図
（森林保険センター・森林総合研究所、2020）
実際に存在している森林ではなく、同じ相対日射率を持った森林が一様に存在していると仮定した場合の危険日数。

③ 林野火災発生リスクの地域性

2024年12月〜2025年3月や2025年12月〜2026年1月は、太平洋岸などの広い範囲で降水量が極端に少ない状態でした。本来なら林床可燃物が滅多に燃えやすい状態にまで乾燥しないような葉量の多い森林においてすら、この期間では燃えやすい状態となったと考えられます。2025年2〜3月と2026年1〜2月に大規模な林野火災が発生したのは、直前の1、2か月の間において極端に降水量が少なかったため、葉量が多く相対日射率の低い林分を含め、流域全体の様々な林分で林床可燃物が燃えやすい状態になっていたためと思われる。

左の地図は、林床可燃物の含水状態をシミュレーションして、林野火災発生危険日



相対日射率が20%程度の森林（20年生のスギ・ヒノキ林）

の日数を示しています。日本全国に相対日射率が20%の森林が一様に存在していると仮定した状態で気象条件である日射量と降水量のみの影響による危険日数の推定値です。1995〜2016年における22年間間の平均値であり、葉量など森林の状態による影響は含みません。関東平野の北部、東海地域、瀬戸内沿岸に発生危険日数の多い地域が広くみられます。日射量と降水量からみた場合、これらの地域は冬季に雨が降らない時期があることが原因で、潜在的に林野火災が発生するリスクが高い地域といえます。

その上で、この3地域の森林の状態を勘案すると、関東平野の北部では葉量の多いスギ林などが広く分布しており、こうした森林では相対日射率が低くなります。一方で、瀬戸内沿岸は、他の地域に比べてマサ

④ おわりに

土を主とする土壌によって構成されている森林が広く分布し、東海地域では瀬戸内沿岸ほどではないですが、マサ土が一部分分布しており、瀬戸内沿岸にある森林と関東平野の北部にある森林が混在している森林になっています。マサ土を主とする土壌によって構成されている森林では、葉量の多い森林にまで成長していない場合が多く、相対日射率が高い森林といえます。瀬戸内沿岸地域が林野火災の頻発する地域の一つと言われるのは、葉量や日射量・降水量などの状況から林床可燃物の乾燥が進みやすく、林野火災発生危険日が多い森林が広く分布しているためと考えられます。

今回は林野火災発生リスクについて紹介しました。林野火災は風が強い時ほど、燃え方が激しくなり、あるいは広範囲に燃え広がりがやすくなると、被害が大きくなります。どのような森林で、風が強い時に被害が大きくなりやすいのか、研究を進めていくことも重要です。





国有林野事業の取組

七里御浜の松林を 守り育てる、地域の力

近畿中国森林管理局 三重森林管理署

はじめに

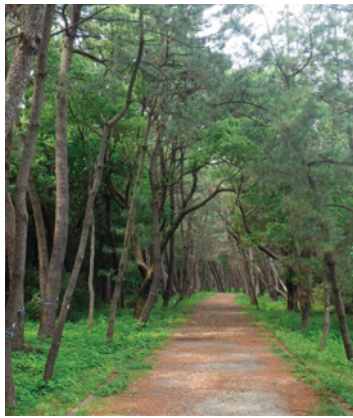
日本各地に広がる海岸沿いのマツの防風林（防風保安林）は、古くから、強風や潮害、飛砂から地域の暮らしを守る自然の防災施設としての役割を果たしてきました。

三重森林管理署には、熊野灘に面した海岸沿いに、クロマツ林で構成されている広大な七里御浜国有林があります。この松林は、熊野灘からの強い潮風を防ぐことを目的として、江戸時代に地元の新宮藩がクロマツを植栽したことに始まり、現在まで人々の暮らしを守ってきました。

今回は、こうした歴史ある七里御浜国有林において、地域と連携して進めている松林再生の取組について紹介します。

七里御浜国有林の概要

七里御浜は、熊野市から紀宝町まで約25 km続く、日本で最も長い砂礫海岸で、海岸線に沿って広がる幅約120mの松林



深緑の松林



長さ25 kmにもおよぶ七里御浜の松林

七里御浜風致探勝林・林野庁
https://www.rinya.maff.go.jp/kokuyu_rinya/kokumin_mori/katuyo/reku/rekumori/shichiri.html



管内概要

所在地

三重県亀山市本町1-7-13

区域面積

577千ha

うち森林面積 372千ha

うち国有林面積 24千ha

関係自治体

1県11市7町

三重県、津市、四日市市、松阪市、桑名市、鈴鹿市、尾鷲市、亀山市、熊野市、いなべ市、志摩市、伊賀市、菰野町、大台町、大紀町、南伊勢町、紀北町、御浜町、紀宝町



三重森林管理署は、三重県内の森林面積の約6%（約24千ha）に相当する国有林の管理経営を担っています。国有林の人工林率は48%、分布は大きく分けて、三重・奈良県境を南北に走る台高山脈と三重・岐阜県境の養老山系及び三重・滋賀県境の鈴鹿山系にあり、気候の地域差が大きく、多様な動植物が生息する森林から住民の生活を守る防風林など、多様な森林があるのが特徴です。

これらの森林の特性を活かし、公益的機能の維持増進を行いつつ、持続可能な管理を進めています。



は、すべて国有林が管理しています。その海岸線と松林の美しさから、林野庁では平成29年に「日本美しい森お薦め国有林」の一つに選定してその特色や見どころ、歴史的な特徴などについて、情報発信を行っています。

一方で、昭和30年代以降、特に昭和50年代後半から平成初期にかけて数万本のマツ枯れ被害が発生しました。現在、被害は落ち着いているものの、高木のマツの多くが枯死したことに伴い、広葉樹が増えて、マツと混交林が主体となっています。

さらに、令和元年には台風による高波や暴風の影響により、松林の侵食や塩害によるマツの枯死も発生しています。

協議会の設立、GG (グリーン・グロー)作戦 の取組

松枯れ被害が深刻化するなか、昭和62年に三重県南牟婁郡紀宝町の呼びかけで、松林の保全を活動目的とする「七里御浜松林を守る協議会」が設立されました。現在では、紀宝町、御浜町、熊野市と三重県(熊野森林事務所)、環境省(近畿地方環境事務所)、三重森林管理署が参画しています。協議会は、地域住民の協力を得ながら、平成5年度から20年以上にわたり、マツの植栽による保全と活動のPRを図るため、ボランティア型の植樹・清掃活動であるGG(グリーン・グロー)作戦を実施してきました。

令和7年度の取組

令和8年2月には、七里御浜国有林内の3会場(熊野市、御浜町、紀宝町)で29回目となる「令和7年度七里御浜防風林GG作戦」を実施しました。地域住民をはじめとする130人の方々にご参加いただき、松くい虫に強い耐性を持つ抵抗性クロマツの苗木を、計240本植栽しました。植栽時には、苗木の活着を促すため、腐葉土を混ぜ込ませるとともに、乾燥により苗木が枯れるのを防ぐために、周りに干し草を敷き詰める新たな取組を行いました。このほか植栽会場周辺や海岸の清掃活動も行いました。

おわりに

これまでのGG作戦では、約1万本のマツを植栽し、松林の再生が進められました。また、参加者は延べ約4,800人になり、これらの取組を通じて地域関係者との交流が図られました。

長年続く活動ですが、これからは植栽だけでなく、下刈等の保育作業も必要となってくる中で、今後も継続して松林を守っていくためには、地域の関係者の協力が不可欠です。幅広い世代に参画を呼び掛けながら、次世代の担い手確保に取り組んでいきます。

また、七里御浜は潮風が非常に強く、乾燥や塩害といった厳しい生育環境に加え、ノネズミやノウサギによる被害も発生しています。植栽した苗木の活着率の向上や、育成・管理に工夫が必要であり、専門家の意見なども踏まえ対応していきます。

七里御浜国有林は、美しい景観と歴史をもちながら、地域の暮らしを守る防風林として重要な役割を果たしています。三重森林管理署では、この松林を未来へつなぐため、地域との連携を深めながらGG作戦などの取組を継続していきます。



植林をしている様子



苗木の乾燥を防ぐための干し草を敷く作業



地元の子供たちとの清掃活動



紀宝会場での集合写真

「森林の土地の所有者届出書」 の様式が変わりました

森林の土地の所有者届出制度において、新たに所有者となった方が提出する「森林の土地の所有者届出書」の様式が改正され、この4月から、所有者となった方の国籍等を新たに記載していただくことになりました。

林野庁ウェブサイトでは、制度を紹介するパンフレットと、届出書をパソコンで作成できる届出書作成支援ファイル（エクセル形式）を公開しています。

最新の森林所有者を市町村が把握することで、例えば、所有者の方への働きかけがしやすくなるため、森林の集積・集約化などにつながり、地域の適切な森林づくりが円滑に進むことが期待されます。相続などで森林を取得された場合は、忘れずに市町村への届出をお願いいたします。

森林の土地を取得したときは届出が必要です
2026年4月～届出書に国籍等の記載が始まります
～森林の土地の所有者届出制度の概要～

詳しくは、所有者となった土地がある市役所・町村役場や、都道府県庁又は出先機関の林務担当までお問い合わせください。

Q なぜ届出が必要なのですか？
A 森林の所有者が分からない。
① 行政が森林所有者に対して助言等ができない
② 事業体が間伐等をする場合に所有者に働きかけて森林を集約化し効率を上げられない
ことから、森林の土地の所有者の把握を進めるため、森林法に基づき、森林の土地の所有者届出制度が定められています。
また、令和6年(2026年)4月から、届出書の様式が改正され、所有者となった方の国籍等を新たに記載していただくことになりました。
なお、この届出により、森林の土地の所有者の帰属が確定されるものではありません。

Q どのような場合に届出が必要なのですか？
A 個人か法人かによらず、売買契約のほか、相続、贈与、法人の合併などにより、森林^{※1}の土地を新たに取得した場合に、事後の届出として森林の土地の所有者届出が必要です。面積の基準はありませんので、面積が小さくても届出の対象となります。ただし、国土利用計画法に基づく土地売買契約の届出^{※2}を提出した場合には、森林の土地の所有者届出は不要です。
※1 用途計画が決定する地域森林計画の対象となっている森林です。登記上の地籍によらず、取得した土地が森林の状態となっている場合は、届出の対象となる可能性が高いのでご注意ください。
※2 国土利用計画法に基づき、次の面積以上の土地の取得時または取得後10年以内には、森林の土地の所有者届出は不要です。
市街化区域: 2,000㎡[※]、その他の都市計画区域: 5,000㎡[※]、都市計画区域外: 10,000㎡[※]

Q どのように届出を行うのですか？
A 所有者となった日から90日以内に、取得した土地がある市町村の長へ届出を行います。相続の場合、財産分割がされていない場合でも、相続開始の日から90日以内に、法定相続人の共有物として届出をする必要があります。

! 森林所有者となった方は、立木の伐採を行う場合は市町村長に伐採及び伐採後の造林の事前届出、1ha以上の林地開発（太陽光発電設備の設置を目的とする場合は10.5ha以上）を行う場合は知事の許可が必要です（保安林では、立木の伐採等及び土地の形質の変更について、知事の許可等が必要です）。

Q どのような届出書を提出するのですか？
A 届出書の様式に記入のうえ、次の書類を添付して提出してください。
① その森林の土地の位置を示す図面(任意の図面に大まかな位置を記入)
② その森林の土地の登記事項証明書(写してもよい)、又は、土地売買契約書、相続分割協議の目録、土地の権利書の写しなど、届出する方が権利を取得したことがわかる書類

林野庁のWebサイトにおいて制度の紹介や、届出書の様式・届出書の入力支援するファイルを公開しています。

Q 届出を出さないとうなるのですか？
A 届出を出さない、又は虚偽の届出をしたときは、10万円以下の過料が科されることがあります。

No! 無届 **No! 虚偽届出**

制度概要のパンフレット ▶

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/todokede/attach/pdf/index-13.pdf>



森林の土地の所有者届出書作成支援ファイル ▶

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/todokede/attach/xls/index-3.xls>



① 森林の土地の所有者届出制度の概要

森林法では、森林の土地の所有者となった方は、所有者となった日から90日以内に、取得した土地のある市町村長へ届出を行うことが義務付けられています。

売買契約のほか、相続、贈与、法人の合併などにより森林の土地を新たに取得した場合は、個人か法人かによらず、全て届出が必要です。

なお、不動産登記とは別の制度であり、相続や売買による所有権移転登記を実施した場合であっても、この届出は必要ですのでご注意ください。

ただし、国土利用計画法に基づく土地売買契約の届出を提出した場合には、森林の土地の所有者届出は不要となります。

② 森林の土地の所有者届出制度の林野庁ウェブサイト

制度概要のパンフレットや届出書作成支援ファイルのほか、届出書の様式・関係通知等は、林野庁ウェブサイトから入手することができます。なお、届出方法などの具体的な運用は市町村により異なることがありますので、届出先の市町村の指導に従って作成・提出をお願いします。

森林の土地の所有者届出制度（林野庁ウェブサイト）

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/todokede/>



みどりの大使 が行く!



...**2026**...
ミス日本みどりの大使
ながた まなみ
永田 愛実



皆さん、こんにちは。2026ミス日本みどりの大使の永田愛実です。
みどりの大使に就任させていただき、約2ヶ月が経ち、様々な経験をさせていただいています。自然豊かな長崎で育った私にとって、森や木は「そこにあるのが当たり前」の存在でした。しかし今は、その当たり前の景色の裏側に、たくさんの方の手と長い時間がかかっていることを知り、驚きと感謝の気持ちでいっぱいです。

「緑の雇用ポスター」

2月末に「緑の雇用ポスター」の撮影で、千葉県君津市の森を訪れました。千葉県森林組合の皆さんに伐倒の様子を見せていただき、チェーンソーで木に切り込みを入れ、倒れる方向を計算しながら作業を進めていく姿はとてまかつこよく、技術の高さに驚



きました。木が倒れる瞬間の「メキメキ」という音とともに大きな音を立てて倒れる光景は、思わず息をのむほどでした。同時に、安全に細心の注意を払いながら作業されている姿から、林業の現場の責任の重さも感じました。

山梨視察、苗木生産

3月には山梨県緑化推進機構の皆様にご協力いただき、山梨県の林業を視察しました。苗木づくりから木材加工まで、いわゆる「川上から川下まで」の流れを実際に見ながら教えていただきました。特に心に残ったことは、森づくりの始まりがとても小さな「種」から始まるということです。私は、木は「そこにあるもの」という感

覚で、種の存在を意識したことがありませんでした。しかし、普段私たちが目にする大きな木も、最初は、ほんの小さな種から育っていきます。そこから苗木を育て、植林し、何十年もかけて森になっていく。普段の生活では想像もしなかった長い時間の積み重ねを知り、森を見る目が少し変わった気がします。

山梨視察、木材加工

また、木材加工の現場では一本の木がさまざまな形に姿を変えていく様子を見せていただきました。建物の柱や板材になるだけでなく、枝葉や端材はバイオマス発電の燃料として活用されるなど、木は本当に無駄なく使われていることを知りました。森を守りながら資源として生かしていく林業を通じた循環を実際に見ることができ、森と人との繋がりや深さを改めて感じる時間となりました。これからも現場で学んだことや出会った方々の想いを、みどりの大使として多くの方に届けていきたいです。

愛実のつなぐ・届ける・森の声

「毎年チャレンジで、毎年1年生」

この言葉は、苗木生産の現場を見させていただいた際に、有限会社 明見緑化の宮下さんからいただいた言葉です。長年この仕事をしていても、「毎年1年生の気持ちなんだよ」とおっしゃっていたことに、私はとても驚きました。理由を伺うと、苗木づくりはその年の天候や気温、雨の量によって状況が大きく変わるため、経験があっても同じようにはいかないそうです。種をまく時期や水を与えるタイミングも、その年の様子を見ながら考えていると聞き、自然と向き合う仕事の奥深さを感じました。





緑の募金

ご協力を
お願いします

もり まも もり い
森林を守る 森林を活かす

原画・廣戸麻智さん
国土緑化推進・青森運動がスター
原画コンクール入賞作品

「緑の募金」は、身近な地域の森づくりをはじめ、国内外の森づくりや人づくりなどに大切に活用されています。



春の新緑シーズン(1月~5月)と秋の紅葉シーズン(9月~10月)の年2回
家庭募金、街頭募金、職場募金、企業募金、学校募金などによって行われています。

緑の募金に関するお問い合わせはこちらまで
公益社団法人 国土緑化推進機構 ☎0120-110-381
電子メールアドレス bokin@green.or.jp



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



本誌に使われている紙は、
日本の森林を育てるために
間伐材を積極的に使用しています。

「林野」は林野庁 HP でもご覧になれます。詳しくは

情報誌 林野

検索

